

第 39 回岐阜シンポジウム

テーマ : 人体解剖掛図の世界 ～数十年の眠りから今よみがえったサイエンスアート～

開催日 : 令和 3 年 3 月 27 日 (土) 13 時～17 時頃

開催場所: 岐阜大学講堂 (岐阜県岐阜市柳戸 1 番 1 岐阜大学内)

オーガナイザー・司会:

千田隆夫 (岐阜大学医学部教授)

川窪伸光 (岐阜大学応用生物科学部教授)

シンポジスト構成:

《主催者挨拶》 森脇久隆 (岐阜大学学長)

《第一部》 解剖掛図を巡る多角的考察 (約 3 時間)

- 1) 「岐阜大学解剖学教室所蔵の人体解剖掛図の歴史」
千田隆夫 (岐阜大学医学部教授)
- 2) 「人体解剖図ならびに理科美術(標本画)の近代史」
小村一也 (NPO 法人 nature works 理事長)
- 3) 「人体解剖図における日本的表現 -東京大学医学部解剖学掛図より-」
上野恵理子 (東京大学総合研究博物館特任研究員)
- 4) 「人体解剖図はいかに作られ、使われたか -解剖図の500年の歴史-」
坂井建雄 (順天堂大学保健医療学部・医学部特任教授、日本医史学会理事長)
- 5) 「解剖掛図の思い出について」
松下捷彦 (高山赤十字病院名誉院長)
- 6) 「私たちに人体解剖掛図が語ること」
川窪伸光 (岐阜大学応用生物科学部教授)

《第二部》 総合討論 ～解剖掛図の意義と貢献～ (約 40 分)